

## 春を呼ぶ「もみがら燻炭」

時は少しさかのぼり、昨年一月のこと、ジャムやお菓子をつくっている岐阜県の事業所「社会福祉法人いぶき福祉会」さんからメールをいただきました。な、な、なんと「すてっぷ」でルバーブを栽培していると聞いたので、そのルバーブを仕入りたいということでした。「いぶき」さんに紹介してくださいとのは、「コトノネに「すてっぷ」のことをつないでくださる方」に、「すてっぷ」を支えてくださる方のつながりに、とても感激しました。

しかし…畑に作物は何一つ植わっていない状態。電話で「実はこれから来年春ルバーブを植えるんです。せつかくメールをもらったのに本当に申し訳ないです。発送できる状態になったらすぐにご連絡します。」とお答えして、電話をおきました。そのあと、ホームページを見ると、「いぶき」さんでは、旬の味覚の食材を全国あちこちから仕入れて、ジャムにして販売されています。「〇〇さん家のりんごジャム」というように、生産者の方とのつながりも大切にされている様子が伝わってきました。

さらに、試作として紹介されていた商品に衝撃を受けました。青いルバーブのバイと赤いルバーブのバイ「種類の写真です。

「すてっぷ」で育てているのは緑色のルバーブです。一本の茎の下の方は真っ赤ですが、だんだん上に行くほど緑色になっているものが多く、株の中に何本か上から下まで真っ赤なものがあるこ



ともありますが、その量は緑のものに比べると少なく、それらを混ぜてジャムにすると緑色が強くなって色が悪くなってしまうことがありました。かといって赤いものだけを選んで収穫すると収穫量が少なくなってしまう。それが悩みでした。でもこの写真を見て、自然のものをありのままに受け入れる姿勢、これはこういうものなんですよ。いういさぎよい思いが伝わってきたのです。

うだ、あえてこの色が自然でいいと言ってくれる人もいるかもしれない。私たちはただその特性をもっと知って、それを活かした製品を作ればいいんだ、と気がかされました。

それに、ルバーブを商品化することだけにこだわらず、そのまま販売する方法もあるんだと、大変刺激を受けました。

固定観念を捨てて物事を考えていくことは私にとつてなかなか難しいことです。しかし、新しい人とのつながりは新しい考えに触れる機会をくれると実感しました。

新しい刺激とともに、うれしい知らせがありました。二〇一三年度生活クラブ福祉基金に助成申請をしていたのですが、二〇万円で購入できることになりました。自衛隊の曹友会の方々は、春のルバーブを植える際に協力していただけることになったり、そのほかにも「手伝うよ」ってころよく声をかけてくれる応援の方が増えてきて、少しずつ準備は進んでいます。

そして四月、東京からは桜の便りが届きまし

たが、釧路はやっと路肩の雪も消えてきたくらいです。でも牧草地には緑が見え始め、木にも少しずつ芽が出始めにぎやかになってきました。そして、少し雪解けが遅かった畑に融雪と土壌改良の目的で利用者さん、ボランティアさんと一緒に「もみがら燻炭」をまきました。表面はぬかるんでいましたが、その下の土はまだ硬くしぼれが残っていました。でも春は着実に来ています。そして地元のレストラン「イオマンテ」さんからも新しい仕事の話をいただき、工賃四万円にむけて新たな気持ちでスタートを切る春です。

